

地域マリンビジョンの策定について

北海道開発局は、北海道における全国への水産物供給基地としての役割を将来にわたり守り育てていくため、北海道水産業・漁港漁村の将来像を示した「北海道マリンビジョン21」を平成25年に策定しましたが、その後の情勢変化等に対応するため、令和5年6月に「北海道マリンビジョン」として改訂版を策定・公表したところです。

北海道マリンビジョンの実現に向け、下記のとおり地域マリンビジョンを策定いただける地域を募集します。

記

1 応募資格

北海道開発局が定めた「地域マリンビジョン策定要領」（以下、「要領」とする。）に従って地域マリンビジョンを策定する市町村長。

2 モデル地域等指定基準

要領の6に規定しますが、指定に係る条件は令和6年度中に別途お知らせします。

3 スケジュール

令和7年3月11日17時に募集を締め切り（時間厳守）、所定の手続きを経て令和7年度中に指定する予定です。

4 提出書類

応募にあたっては、要領の4に規定する地域マリンビジョンに係る計画書を提出して下さい。作成にあたっては要領の5を参照願います。

5 提出及び問合せ先

応募書類は、電子メール又は郵送にて提出して下さい。

国土交通省北海道開発局農業水産部水産課漁港漁村係

住所：〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎

電子メール：hkd-ky-marinevision@gxb.mlit.go.jp

電話：011-709-2311

担当：課長補佐（内線5593）、漁港漁村係長（内線5579）

6 モデル地域等への措置

モデル地域等の指定方法等につきましては、令和6年度に定める指定基準を元に令和7年度に指定する予定です。

指定された地域には、地域マリンビジョンの推進に必要な情報を提供するとともに、地域マリンビジョンの取組の進捗や熟度に応じて、関係する第3種及び第4種漁港の整備を効果的に実施します。

7 その他

モデル地域等に指定された地域（過年度の指定地域も含む。）には、毎年度末フォローアップ結果を報告していただくこととなります。（令和7年度に指定されるまでについては、令和6年5月時点でモデル地域及び推進地域に指定されている地域を対象として報告していただく予定です。）

以 上

地域マリンビジョン策定要領

最終改正 令和6年6月17日

国土交通省 北海道開発局

1 目的

水産物の安定供給と水産業の健全な発展を目指し、活力ある水産業や漁村の将来像を実現するため、北海道の資源を活かしながら、漁業者、関係団体や行政の役割分担を踏まえた長期的構想として、北海道開発局は「北海道マリンビジョン」を策定している。本構想の具現化のためには、全道一律、画一的な方策ではなく、それぞれの地域の地理的・社会的・経済的特色を生かした取組が極めて重要であり、地域自らが自主的に本構想に基づいた地域マリンビジョンを策定、推進することが望まれる。

本要領は、北海道の第3種漁港及び第4種漁港を中心とした地域が、「地域マリンビジョン」を策定するにあたって必要な事項を定めたものであり、地域の主体的な取組による地域マリンビジョンの策定を通じて、将来の水産業振興と地域活性化を図ることを目的とするものである。

2 対象地域

漁港及び漁場の整備等に関する法律（昭和25年法律第137号）第6条の規定により指定された漁港を含むことを原則とし、その漁港及び背後集落を中心に沿岸海域を含む一体的な地域など、当該市町村において地域マリンビジョンを実現するために一体的な取組を実施する必要がある地域とする。

3 地域マリンビジョン策定主体

策定主体は市町村とする。なお、対象地域が複数の市町村に含まれる場合は、関係市町村が連名で地域マリンビジョンを策定すること。

4 地域マリンビジョンの策定

地域マリンビジョンに係る計画書(以下「計画書」という。)の作成にあたっては、「計画書様式」を基本とし、関係事業等の基本計画との整合に配慮しつつ、以下について記述する必要がある。

- (1) 対象地域の将来像
- (2) 対象地域の課題
- (3) 地域資源の特徴
- (4) 推進方策と数値目標

また、上記に定める事項のほか、策定主体は「〇〇地域マリンビジョン協議会(以下「地域協議会」という。)」を設置して、十分な助言を得ることを原則とする。地域協議会は、市町村、漁業協同組合、その他関係機関等で構成するものとする。地域協議会の開催にあたっては、構成員とは別にアドバイザーとして振興局及び開発建設部の出席を求め、必要な情報提供等を受けることができる。

なお、地域マリンビジョンの実現のため、策定主体は地域マリンビジョン策定後においても地域協議会を適宜開催し、関係機関の助言・協力を得ながら、当該地域マリンビジョンの円滑な推進を図ることが望まれる。

5 作成にあたっての留意点

地域マリンビジョンの策定にあたっては、北海道マリンビジョンに示す4つの柱である水産物の安定供給基盤・体制の確保、環境・生態系保全とグリーン社会の構築、安全・安心な漁業地域づくり、漁村地域の総合的な振興に沿って作成すること。

なお、詳細については「地域マリンビジョン計画書作成マニュアル」によるものとする。

6 モデル地域等の指定について

北海道開発局は、地域が策定した計画に定める地域の目指す姿や独創性・先駆性などを考慮し、北海道マリンビジョンの具現化に資すると見込める地域等を指定することができる。指定に係る条件は別途定める。

〇〇地域マリンビジョン

～サブテーマ～

水産物の安定供給
基盤・体制の確保

環境・生態系保全と
グリーン社会の構築

安全安心な
漁業地域づくり

漁村地域の
総合的な振興

■地域マリンビジョン協議会

【メンバー構成】

- ・ ○△×
- ・ ○△×
- ・ ○△×
- ・ ○△×
- ・ ○△×
- ・ ○△×

●基礎データ

地域人口：●人（●町、●値）
 漁業生産量：●t（●値）
 漁業生産額：●百万円（●値）
 漁港：△漁港（第3・4種）、
 □漁港（第1・2種）

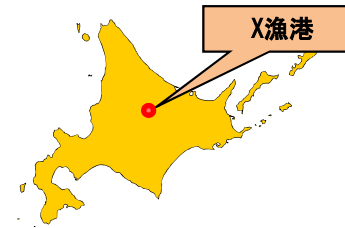
《令和〇年〇月改訂》

地域の将来像

テーマ：〇〇〇

水産物の安定供給基盤・体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続的漁業生産体制の確立 ・ 養殖生産拠点の形成 ・ 水産流通の適正化 ・ スマート水産業の推進 ・ 高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築 ・ 水産物輸出の更なる推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× 	
環境・生態系保全とグリーン社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり ・ 漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進 ・ 水産系廃棄物等のリサイクルの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× 	
安全安心な漁業地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化 ・ ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築 ・ 災害時における水産物流通機能の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× 	
漁村地域の総合的な振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海業振興による地域資源を活かした新産業の創出 ・ 地域振興を担う人づくり ・ 多面的機能の発揮 ・ 多様な連携による地域振興
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× 	

【位置図】



航空写真

【X漁港】

地域資源（特徴）

写真等	写真等	写真等
〈○△×〉	〈○△×〉	〈○△×〉
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× 		

地域全体

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△×

・ 地域全体の現況・課題が分かる写真・図・グラフ 等

水産物の安定供給基盤・体制の確保

【持続的漁業生産体制の確立】 【養殖生産拠点の形成】
 【水産流通の適正化】 【スマート水産業の推進】
 【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】 【水産物輸出の更なる推進】

〇〇地域マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・〇△□
 ・〇△□

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・〇△□
 ・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	

写真・データ等

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】
 【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】
 【水産系廃棄物等のリサイクルの推進】

〇〇地域マリンビジョン

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・〇△□
 ・〇△□

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・〇△□
 ・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	
〇△□	主体：〇△□	短期：〇△□	・〇△□
		中期：〇△□	
		長期：〇△□	

写真・データ等

安全・安心な漁業地域づくり	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△×
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△×

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・ ○△□
 ・ ○△□

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・ ○△□
 ・ ○△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	

写真・データ等

漁村地域の総合的な振興

【海業振興による地域資源を活かした新産業の創出】
 【地域振興を担う人づくり】
 【多面的機能の発揮】 【多様な連携による地域振興】

〇〇地域マリンビジョン

漁村地域の総合的な振興	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△×
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△× ・ ○△×

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・ ○△□
 ・ ○△□

写真・図等のタイトル

写真・図

【概要】
 ・ ○△□
 ・ ○△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	
○△□	主体：○△□	短期：○△□	・ ○△□
		中期：○△□	
		長期：○△□	

写真・データ等

地域マリンビジョン計画書 作成マニュアル

令和6年5月

国土交通省 北海道開発局

目 次

1	地域マリンビジョンの概要
2	地域マリンビジョン計画書の作成の手順と方法
2-1	現状把握
2-2	課題の抽出
2-3	地域の将来像
2-4	構想実現に向けた推進方策
3	地域マリンビジョンの構成
4	地域マリンビジョン（全体版）の作成
5	地域マリンビジョン（4本柱版）の作成
6	フォローアップ計画

《参考資料》

資1	地域マリンビジョン計画書キーワード集
資1-1	地域マリンビジョン（水産物の安定供給基盤・体制の確保）
資1-2	地域マリンビジョン（環境・生態系保全とグリーン社会の構築）
資1-3	地域マリンビジョン（安全・安心な漁業地域づくり）
資1-4	地域マリンビジョン（漁村地域の総合的な振興）
資2	地域マリンビジョン計画書（記載例）
資3	地域マリンビジョン策定に向けた議論のツール

1. 地域マリンビジョンの概要

「北海道マリンビジョン」は、北海道が有する我が国の水産食料基地としての役割を将来にわたり守り育てていくため、地域の資源を活かしつつ、多様な主体の連携・協働により活力ある北海道の水産業や漁村の目指すべき姿を定めた長期構想です。この「北海道マリンビジョン」の具現化に向けては、北海道の各地域において社会情勢や水産業をめぐる情勢変化を踏まえ、水産業・地域振興や活力ある漁村地域を作ることが必要不可欠となります。「地域マリンビジョン」は各地域が地域特性や問題点、課題を踏まえ、地域のあり方＝将来像を描き、その実現に向けて様々な分野と連携しながら実現に向けた取組を実行していくものとなります。

「地域マリンビジョン計画書作成マニュアル」は、地域マリンビジョンの策定に向け、地域マリンビジョン計画書の作成手順と方法を取りまとめたものとなります。

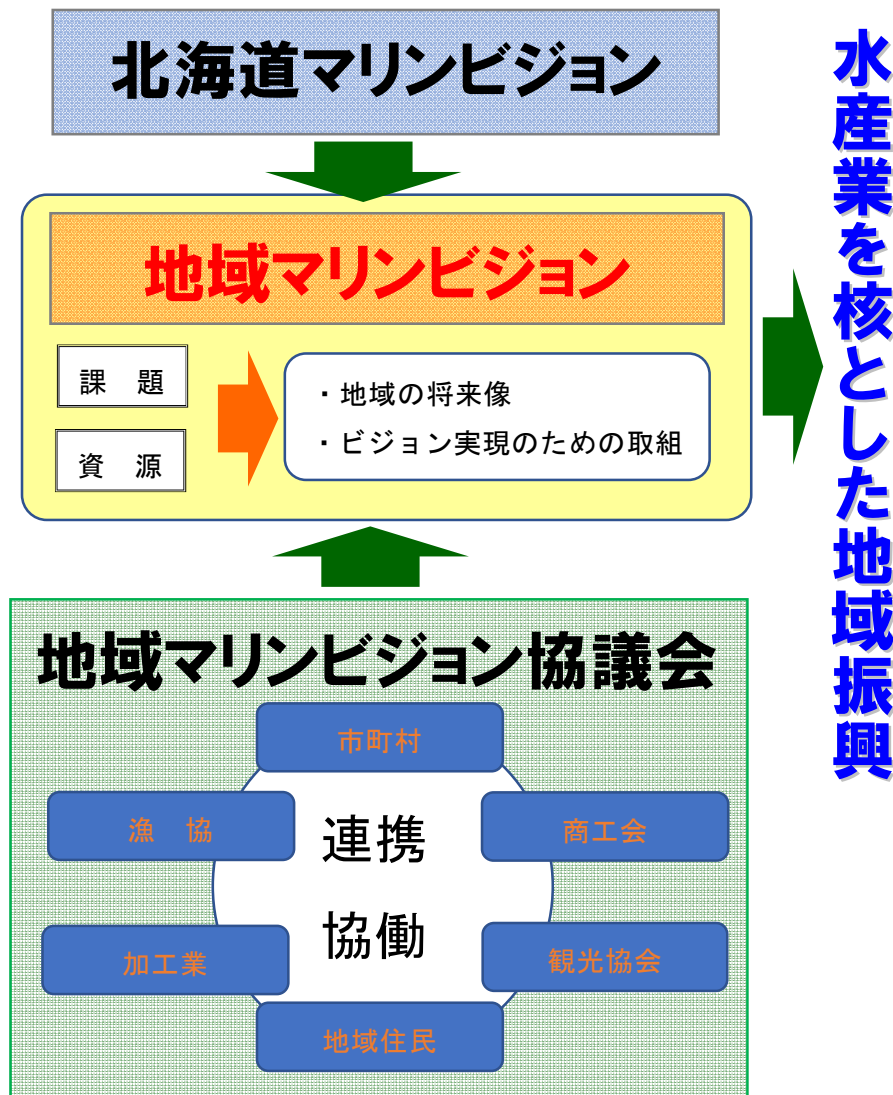


図 1-1 地域マリンビジョンと北海道マリンビジョンの関係

2. 地域マリンビジョン計画書の作成の手順と方法

地域マリンビジョンの策定に向けては、地域マリンビジョン協議会のもと、将来の活力ある地域のあり方＝将来像を議論する必要があります。また、そのためには、地域資源の発掘・再確認といった地域の現況把握、地域独自の問題点や課題を抽出し、その改善や将来像の実現に向けた取組を検討する必要があります。

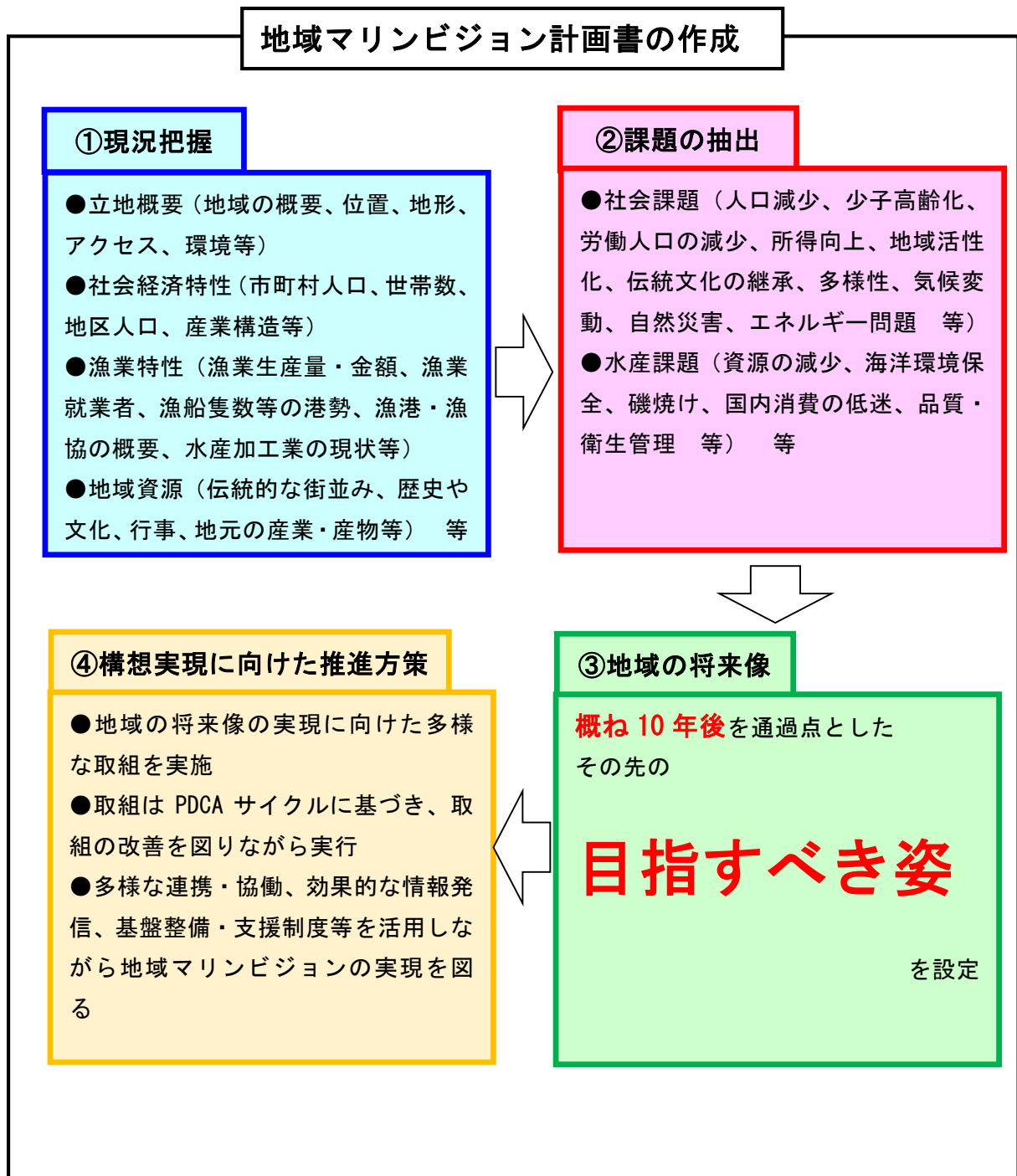


図 2-1 地域マリンビジョン計画書の概要

2-1 現況把握

地域マリンビジョンの策定に向けては、まず地域の現在の姿を客観的かつ定量的に認識する必要があります。地域の現況とは、漁業生産量・額、漁業種類、漁業者数、水産加工業者数といった漁業関連に関する項目はもちろんのこと、社会面であれば、地域の立地、人口推移、人口構成、交通インフラ整備状況等、経済面では、地域の産業構成、企業情報、地域の観光動向等が挙げられます。**地域マリンビジョン計画を策定する上では多面的な観点から地域の現況を把握し、整理**しましょう。

なお、**地域マリンビジョン計画書（全体版）には、“地域人口、漁業生産量・額”に関するデータと“地域資源”を記載**する必要があります。また、参考として、北海道水産業の現況については、「**北海道マリンビジョン：1.1 北海道水産業の役割（P.1～2）、1.2 北海道水産業を取り巻く情勢変化（P.3～5）**」を参照してください。

2-2 課題の抽出

地域が抱えている課題について抽出します。**地域課題とは、地域が抱える漁業・経済・社会・環境等に関する問題**です。地域課題は、地域ごとに異なる特徴や要因を持ち、地域の活性化や持続的な発展を妨げる要因となっています。この課題の解決には、地域の特性や課題を的確に把握し、効果的な対策を講じることが重要となります。

なお、課題の例として、「**参考資料 1**」を参照してください。

2-3 地域の将来像

地域マリンビジョンの将来像は概ね 10 年を通過点として、その先の目指すべき姿を設定するものです。地域の将来像は、現状における資源の有無や計画の実現性、事業の展望といったものにとらわれず、長期的な目標として掲げるものです。

北海道マリンビジョンでは、「水産業の成長産業化」を大目標とし、**①水産物安定供給基盤・体制の確保、②環境・生態系保全とグリーン社会の構築、③安全・安心な漁業地域づくり、④漁村地域の総合的な振興**を4つの柱として掲げ、北海道マリンビジョンの目指すべき姿を位置付けています。**自地域が設定した将来像が上記4本柱のうち、どこに分類されるかについても整理**してください。

なお、地域の将来像の例として、「**参考資料 1**」や「**北海道マリンビジョン P.28～43**」を参照してください。

2-4 構想実現に向けた推進方策

地域の将来像の実現に向け、様々な取組を推進していく必要があります。推進方策は、その取組の体制を明確にし、多様な連携を図り、進捗状況の把握とフォローアップ、計画の見直し等を行いながら進めていく必要があります。**地域マリンビジョン計画書（4本柱版）では、推進方策の“取組体制”、“スケジュール”、“数値目標”も記載**する必要があります。スケジュールについては、「短期：2～3年以内実施、中期：4～6年以内実施、長期：10年以内、または、将来的に実施」といった大まかな想定を記載願います。また、**数値目標は努力目標**です。取組効果の把握、目標達成に向けた取組の目安として、設定できる場合には極力記載するようにし、フォローアップの際に活用してください。

なお、推進方策・数値目標の例として、「**参考資料 1**」を参照してください。

また、これらの議論においては「ブレインストーミング」、「KJ 法」、「SWOT 分析」といった手法を活用することも有効となります。「**参考資料 3**」を参照し、適宜活用してください。

3. 地域マリンビジョンの構成

地域マリンビジョン計画書は、地域の概要を整理した“全体版”（図 3-1）と、北海道マリンビジョンが掲げる目ざす姿である“4本柱版”（図 3-2～5）の二部構成となっています。

地域マリンビジョン計画書（全体版）は地域マリンビジョン計画を策定する全地域が作成する計画書となります。また、**地域マリンビジョン計画書（4本柱版）は北海道マリンビジョンにおける地域の将来像＝4本柱の内、各地域の将来像に対応した項目のみを作成**します。このため、最低1項目、最大で4項目作成することになります。

〇〇地域マリンビジョン ～サブテーマ～		■地域マリンビジョン協議会	●基礎データ
水産物の安定供給 基盤・体制の確保	環境・生態系保全と グリーン社会の構築	安全安心な 漁業地域づくり	漁村地域の 総合的な振興
地域の将来像 テーマ：〇〇〇		【メンバー構成】 ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×	地域人口：●人（●町、●値） 漁業生産量：●t（●値） 漁業生産額：●百万円（●値） 漁港：△漁港（第3・4種）、 □漁港（第1・2種）
水産物の安定供給基盤・体制の確保 ・持続的漁業生産体制の確立 ・資源生産拠点の形成 ・水産流通の適正化 ・スマート水産業の推進 ・高品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築 ・水産物輸出の更なる推進 ・〇△× ・〇△×		【位置図】  <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 60px; margin-left: 100px; text-align: center;">航空写真</div> <div style="text-align: right; margin-right: 10px;">【X漁港】</div>	
環境・生態系保全とグリーン社会の構築 ・沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり ・漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進 ・水産廃棄物等のリサイクルの推進 ・〇△× ・〇△×		地域資源（特徴）	
安全安心な漁業地域づくり ・増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化 ・ハード・ソフトが一体となった漁業体制の構築 ・災害時における水産物販路確保の確保 ・〇△× ・〇△×		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; text-align: center;">写真等</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; text-align: center;">写真等</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; text-align: center;">写真等</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <〇△×> <〇△×> <〇△×> </div>	
漁村地域の総合的な振興 ・漁業振興による地域資源を活かした新産業の創出 ・地域振興を担う人づくり ・多面的機能の発揮 ・多様な産物による地域振興 ・〇△× ・〇△×		【その他】 ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×	
地域全体			
現状		課題	
・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×		・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×	
・地域全体の現況・課題が分かる写真・図・グラフ 等			

図 3-1 地域マリンビジョン計画書（全体版）のフォーマット

水産物の安定供給基盤・体制の確保		【持続的漁業生産体制の確立】 【養殖生産拠点の形成】	〇〇地域マリンビジョン	
		【水産流通の適正化】 【スマート水産業の推進】	【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】 【水産物輸出の更なる推進】	
水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△×	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△×	写真・図	写真・図
		【概要】 ・○△□ ・○△□	【概要】 ・○△□ ・○△□	
推進方策				
取組内容	取組体制	スケジュール		数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
写真・データ等				

図 3-2 地域マリンビジョン計画書（水産物の安定供給基盤・体制の確保）のフォーマット

環境・生態系保全とグリーン社会の構築		【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】	〇〇地域マリンビジョン	
		【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】	【水産系廃棄物等のリサイクルの推進】	
環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△×	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△×	写真・図	写真・図
		【概要】 ・○△□ ・○△□	【概要】 ・○△□ ・○△□	
推進方策				
取組内容	取組体制	スケジュール		数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□		・○△□
写真・データ等				

図 3-3 地域マリンビジョン計画書（環境・生態系保全とグリーン社会の構築）のフォーマット

安全・安心な漁業地域づくり		【増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化】 【ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築】 【災害時における水産物流通機能の確保】	〇〇地域マリンビジョン	
漁業振興・安全・安心な漁業地域づくり	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× 	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× 	写真・図	写真・図
		【概要】	【概要】	
		・○△□	・○△□	
		・○△□	・○△□	
推進方策				
取組内容	取組体制	スケジュール		数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
写真・データ等				

図 3-4 地域マリンビジョン計画書（安全・安心な漁業地域づくり）のフォーマット

漁村地域の総合的な振興		【漁業振興による地域資源を活かした新産業の創出】 【地域振興を担う人づくり】 【多面的機能の発揮】 【多様な連携による地域振興】	〇〇地域マリンビジョン	
漁村地域の総合的な振興	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× 	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× 	写真・図	写真・図
		【概要】	【概要】	
		・○△□	・○△□	
		・○△□	・○△□	
推進方策				
取組内容	取組体制	スケジュール		数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
○△□	主体：○△□	短期：○△□		・○△□
		中期：○△□		
		長期：○△□		
写真・データ等				

図 3-5 地域マリンビジョン計画書（漁村地域の総合的な振興）のフォーマット

4. 地域マリンビジョン（全体版）の作成

原則1枚で取りまとめをお願いします。書式や文字の大きさは、フォーマットを基本としますが、スペース等の関係で変更しても構いません。

下記、記載方法の他、「**参考資料2**」等を参考に作成してください。

※作成にあたっては参考資料の内容・表記にとられる必要はありません。地域独自の内容も含めて、自由に整理してください。

【記載方法】

The diagram illustrates the layout of a 'Regional Marine Vision' page. It is divided into several sections with callouts explaining their content:

- Header:** 〇〇地域マリンビジョン ~サブテーマ~
- Association Information:** 〇〇地域マリンビジョン協議会 (Members list: 〇△×, 〇△×, 〇△×, 〇△×, 〇△×, 〇△×)
- Basic Data (※1):** 地域人口: ●人 (●町, ●値), 漁業生産量: ●t (●値), 漁業生産額: ●百万円 (●値), 漁港: △漁港 (第3・4種), □漁港 (第1・2種). Includes a revision date: <<令和〇年〇月改訂>>
- Members:** 地域マリンビジョン協議会の構成員を記載
- Location Map:** 対象市町村・漁港の位置図・航空写真を記載. Includes a map of the region with a red dot for the fishing port (X漁港) and an aerial photo placeholder.
- Local Resources (特徴):** 写真等 (〇△×), 写真等 (〇△×), 写真等 (〇△×). Includes a 'その他' (Others) section with 〇△×, 〇△×, 〇△×, 〇△×.
- Regional Overview:** 地域全体の現状・課題を記載. A table with columns '現状' (Current Status) and '課題' (Issues), both containing 〇△×.
- Regional Resources (特長):** 写真・図・グラフ等を添付 (※2). Includes a note: ・地域全体の現況・課題が分かる写真・図・グラフ 等

※1：地域人口：最新の国勢調査、漁業生産量・金額：最新の港勢調査

なお、対象漁港は第3・4種漁港に関わらず、対象地域の振興に寄与する漁港（第1・2種）、及び港湾の記載も可。

※2：例えば、地域の現状で「魚種交代」が挙げられれば、その推移（H30頃から〇〇がとれなくなっているが、R1より〇〇の漁獲量が増加）が確認できる写真・グラフ等を添付。また、地域課題が「漁業者・漁協職員の高齢化」であれば、漁業者・漁協職員の年齢構成が確認できるグラフを添付。

〇〇地域マリンビジョン
～サブテーマ～

水産物の安定供給基盤・体制の確保 **環境・生態系保全とグリーン社会の構築** **安全安心な漁業地域づくり** **漁村地域の総合的な振興**

改訂日を記載

改訂日: 令和〇年〇月改訂

地域の将来像

テーマ: 〇〇〇

水産物の安定供給基盤・体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△×
環境・生態系保全とグリーン社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△×
安全安心な漁業地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△×
漁村地域の総合的な振興	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△×

地域資源 (特徴)

<ul style="list-style-type: none"> ・全体テーマを記載 ・地域の将来像に対応する4本柱を選択し、対応する細分化項目、及び地域で設定した“将来像”を記載 (※4) 	
---	--

地域全体

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△× ・〇△×

・地域全体の現況・課題が分かる写真・図・グラフ 等

※3：最低1項目、最大4項目を選択する。

【例】地域の将来像が「①養殖事業」関連と「②防災事業」関連だった場合

①養殖事業⇒4本柱の内、「水産物の安定供給基盤・体制の確保／養殖生産拠点」に該当

②防災事業⇒4本柱の内、「安全・安心な漁業地域づくり/増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化、ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築、災害時における水産物流通機能の確保」に該当

【記載方法】

〇〇地域マリンビジョン
～サブテーマ～

水産物の安定供給基盤・体制の確保 **安全安心な漁業地域づくり**

地域の将来像

「水産物の安定供給基盤・体制の確保」、「安全安心な漁業地域づくり」のみを選択し、他を削除

※4：※3と同様に最低1項目、最大4項目を選択する。

北海道マリンビジョンにおける地域の将来像＝4本柱と細分化項目は表3-1に示すとおりである。

表3-1 北海道マリンビジョンにおける地域の将来像

北海道マリンビジョンにおける地域の将来像（4本柱）	細分化項目
水産物の安定供給基盤・体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●持続的漁業生産体制の確立 ●養殖生産拠点の形成 ●水産流通の適正化 ●スマート水産業の推進 ●高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築 ●水産物輸出の更なる推進
環境・生態系保全とグリーン社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり ●漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進 ●水産系廃棄物等のリサイクルの推進
安全安心な漁業地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化 ●ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築 ●災害時における水産物流通機能の確保
漁村地域の総合的な振興	<ul style="list-style-type: none"> ●海業振興による地域資源を活かした新産業の創出 ●地域振興を担う人づくり ●多面的機能の発揮 ●多様な連携による地域振興

【例】地域の将来像が「①脱炭素事業」関連と「②海業振興事業」関連だった場合

①脱炭素事業⇒4本柱の内、「環境・生態系保全とグリーン社会の構築／漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進」に該当

②海業振興事業⇒4本柱の内、「漁村地域の総合的な振興/海業振興による地域資源を活かした新産業の創出、地域振興を担う人づくり」に該当

【記載方法】

地域の将来像

テーマ：○○○

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× 	
漁村地域の総合的な振興	海業振興による地域資源を活かした新産業の創出 地域振興を担う人づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× 	

・「環境・生態系保全とグリーン社会の構築」を選択し、「漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進」を記載

・同様に「漁村地域の総合的な振興/海業振興による地域資源を活かした新産業の創出、地域振興を担う人づくり」を記載

・「○△×」には地域で独自に掲げた“将来像”を記載

空きスペースには地域の将来像に関連した資料等があれば添付

5. 地域マリンビジョン（4本柱版）の作成

原則各項目1枚で取りまとめをお願いします。書式や文字の大きさは、フォーマットを基本としますが、スペース等の関係で変更しても構いません。

下記、記載方法の他、「**参考資料2**」等を参考に作成してください。

※作成にあたっては参考資料の内容・表記にとらわれる必要はありません。地域独自の内容も含めて、自由に整理してください。

【記載方法】

・地域の将来像に対応する4本柱に対応する細分化項目を記載（※1）

・地域名を記載

水産物の安定供給基盤・体制の確保		[OΔ×] [OΔ×]	〇〇地域マリンビジョン	
水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ×	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ× ・OΔ×	写真・図	写真・図
			【概要】 ・OΔ□ ・OΔ□	【概要】 ・OΔ□ ・OΔ□
推進方策				
			スケ	
OΔ□		・4本柱に対応する現状・課題を記載 ※“課題”は、「参考資料1」も参考にしてください	・現状・課題に対応する写真・図・表等を添付し、概要を記載	
OΔ□				・OΔ□
OΔ□	主体：OΔ□	中期：OΔ□ 長期：OΔ□ 短期：OΔ□		・OΔ□
OΔ□	主体：OΔ□	中期：OΔ□ 長期：OΔ□ 短期：OΔ□		・OΔ□
OΔ□	主体：OΔ□	中期：OΔ□ 長期：OΔ□ 短期：OΔ□		・OΔ□
写真・データ等				

※1：北海道マリンビジョンにおける地域の将来像＝4本柱と細分化項目は表3-1に示すとおりである。

【例】「水産物の安定供給基盤・体制の確保」を選択し、「①養殖事業」関連と「②輸出事業」関連だった場合

①養殖事業⇒「養殖生産拠点の形成」に該当

②輸出事業⇒「水産物輸出の更なる推進」に該当

【記載方法】

水産物の安定供給基盤・体制の確保 【養殖生産拠点の形成】
【水産物輸出の更なる推進】

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△ ・○△
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・○△ ・○△

・「水産物の安定供給基盤・体制の確保」における、「養殖生産拠点の形成」、「水産物輸出の更なる推進」を記載（他を削除）

水産物の安定供給基盤・体制の確保 【○△×】
【○△×】 〇〇地域マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・○△× ・○△× ・○△× ・○△× ・○△ ・○△ ・○△ 	写真・図等のタイトル	写真・図等のタイトル
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・○△ ・○△ ・○△ ・○△ ・○△ ・○△ 	<p>・地域の将来像（全体版に記載）の実現に向けた推進方策として、「取組内容」、「取組主体」、「スケジュール（※2）」、「数値目標（※3）」を記載</p> <p>※課題・将来像に対応した“取組内容（推進方策）”、“数値目標”は、「参考資料 1」も参考にしてください</p>	

推 進 方 策			
取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□	・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□	・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□	・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□	・○△□
○△□	主体：○△□	短期：○△□ 中期：○△□ 長期：○△□	・○△□

写真・データ等

・推進方策を補足する写真・データ等があれば添付

※2：概ね 10 年の取組を想定し、「短期：1～3 年程度」、「中期：4～7 年程度」、「長期：8～10 年程度、または、それ以上」に取組むべき事項等が記載されることが望ましい。

※3：概ね 10 年後を目標とした場合に達成可能な目標を記載する。なお、達成目標年次が明確な場合は明記すること。

※数値目標は努力目標であるため、取組効果の把握、目標達成に向けた取組の目安として、設定可能な場合のみ記載

【参考資料1の活用方法】

⇒参考資料1は各事項のキーワードを整理したものです。文言をそのまま記載しても問題ありませんが、**キーワード集にない文言を記載して構いません**ので、下の例のように参考程度に活用してください。

《例》

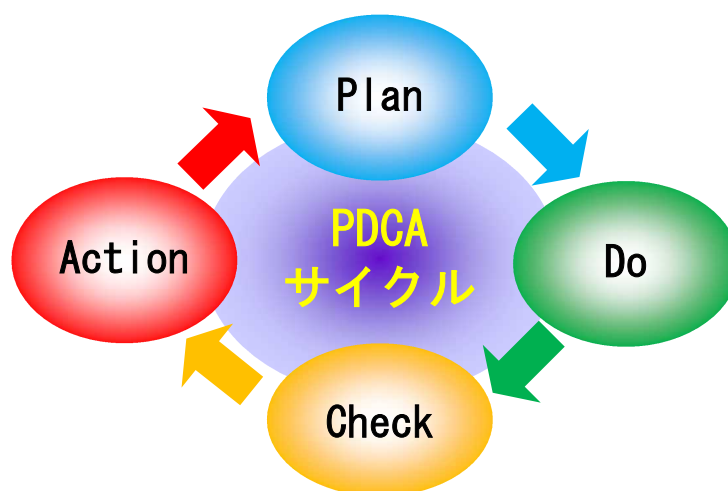
水産業・漁村の将来像	北海道水産業の課題	推進方策	数値目標
高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築	産地における生産・流通機能の強化、水産物の需要拡大	<ul style="list-style-type: none"> 量販店・外食産業との契約 消費者ニーズに合わせた冷凍食品、総菜、ファストフィッシュなどの加工品の商品開発・製造・販売 	<ul style="list-style-type: none"> 契約数 開発製品数、金額
	食の安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 水産物トレーサビリティシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 品目数
水産物の安定供給基盤・体制の確保	多様化する消費者ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた用途の最適化 商標登録やGI等によるブランド化 エシカル消費・エコスコアの活用 ICT技術を活用した消費地情報の収集・マーケティング マーケティング型の販売拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 品目数 ブランド化品目数 品目数 サンプル数 品目数
	食品衛生法改正に伴うHACCP手法による水産物品質・衛生管理の義務化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 屋根付き岸壁、清浄海水導入施設の整備 高度衛生管理型市場、製氷施設、冷凍・冷蔵・加工施設などの整備 陸揚げ～荷さばき～出荷～加工～流通プロセスにおける一貫した高度な品質・衛生管理体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 施設数 施設数 施設数
衛生管理体制という視点を参考にアレンジして記載	サプライチェーン、デリバリーチェーンの多様化への対応	<ul style="list-style-type: none"> きめ細やかな流通対応 	<ul style="list-style-type: none"> -
	漁獲から陸揚げ、加工、出荷に至る衛生管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 屋根付き岸壁、清浄海水導入施設の整備 高度衛生管理型市場、製氷施設、冷凍・冷蔵・加工施設などの整備 陸揚げ～荷さばき～出荷～加工～流通プロセスにおける一貫した高度な品質・衛生管理体制の確立 HACCP対応型の高度衛生管理型市場の整備 ICT技術を活用した荷受け～セリ・入札～荷渡し業務のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> 施設数 施設数 施設数 - 作業時間削減、人件費削減

水産物の安定供給基盤・体制の確保	供給基盤・体制の確保	【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】 【養殖生産拠点の形成】	A地域マリンビジョン
現状 <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理マニュアルは作成済であるが、10年以上未更新 衛生管理講習を開催していない 荷さばき施設が40年以上経過しており、老朽化が激しい ブランド化していない 水産物輸出の増加がない 近年漁獲量が大幅に減少、主要魚種の年変動が大きく、収入が安定しない 漁業者の減少、高齢化が進行 漁港水域内で〇養殖を試験的に実施⇒死亡率が高い 漁港内に遊休化した用地、水域有 	課題 <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理体制の構築 水産物の付加価値向上 漁家収入の安定化 養殖生産体制の構築 遊休化した用地、水域の有効活用 	老朽化した荷さばき施設 写真 【概要】 ・昭和〇年に供用開始 ・〇△□	サーモン養殖 写真 【概要】 ・令和〇年より試験開始 ・〇△□
・地域目標等に合わせて、独自の数値目標を記載			
取組内容 高度衛生管理型市場の整備 衛生管理マニュアルの更新・運用 水産物の付加価値向上に向けた認証等の取得 〇〇水産物の海面養殖事業の実施 〇〇水産物の陸上養殖事業の実施	取組体制 主体：漁協、役場（A地域衛生管理協議会） 主体：漁協、役場（A地域衛生管理協議会） 主体：漁協、役場（A地域水産物ブランド化協議会） 主体：漁協、役場（A地域海面養殖協議会） 主体：漁協、役場（A地域陸上養殖協議会）	スケジュール 短期：衛生管理型荷さばき施設の建設に向けた協議会の設立、衛生管理型荷さばき施設の建設の開始 中期：衛生管理型荷さばき施設の建設に向けた協議会の開催、衛生管理型荷さばき施設の計画立案 長期：衛生管理型荷さばき施設の完成 短期：衛生管理講習会の開催、取組の実施 中期：新たな衛生管理型荷さばき施設に対応した衛生管理マニュアルの更新、衛生管理講習会の開催 長期：新たな衛生管理型荷さばき施設での衛生管理マニュアルの運用、衛生管理講習会の開催、現地指導の実施 短期：水産物ブランド化協議会の設立、ブランド化対象魚種の選定 中期：水産物の付加価値化に向けた方法の検討（エコラベル、商標登録、GI等） 長期：認証取得、ブランド水産物のPR 短期：海面養殖協議会の設立、対象魚種・施設規模の設定 中期：養殖設備・機材と種苗・餌料の調達、小規模試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上に向けた餌料等の検討 長期：試験養殖の事業化 短期：陸上養殖協議会の設立、対象魚種・施設規模の設定 中期：養殖設備・機材と種苗・餌料の調達、小規模試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上に向けた餌料等の検討 長期：試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上	数値目標 <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理型荷さばき施設で取り扱われる水産物の割合（〇割） 優良品質衛生管理市場・漁港認定取得 衛生管理講習会の開催（年〇回） 現地指導の実施（年〇回） 優良品質衛生管理市場・漁港認定取得 水産物のブランド化による単価向上（〇%） 生産量〇t/年 生産額〇百万円/年 生産量〇t/年 生産額〇百万円/年
・キーワード集の文言をそのまま活用			
・ブランド化、認証取得という視点を参考にアレンジして記載			

5. フォローアップ計画

地域マリンビジョンの実現に向けては、推進方策の計画内容や実施状況、進捗状況といったスケジュール、数値目標といった達成状況等について、地域マリンビジョン協議会においてPDCAサイクルに基づくフォローアップを行う必要があります。

また、毎年開催されている地域マリンビジョンフォローアップ委員会における委員からの助言等を踏まえ、取組内容、取組体制、推進方策等を改善していくことが効果的です。



※PDCA サイクル：Plan（計画・準備）、Do（取組の実施）、Check（効果の確認や課題の抽出）、Action（課題改善への取組）といった手順を循環させながら取り組むこと

図 5-1 PDCA サイクル

《地域マリンビジョン計画書キーワード集》

地域マリンビジョン計画書作成の参考として活用してください。

※キーワード集にない文言を記載しても構いません。

■水産物安定供給基盤・体制の確保 作成リスト

水産業・漁村の将来像	北海道水産業の課題		推進方策	数値目標	
水産物の安定供給基盤・体制の確保	持続的漁業生産体制の確立	水産資源の適切な管理と海域利用秩序の確立	資源管理 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な水産資源の生態や生活史の科学的解明 ・MSY ベースの資源評価 ・TAC 魚種の拡大 ・IQ 管理の導入 	・-	
		海域環境の変化への対応	・気候変動に対応した漁場整備	・-	
		種苗生産・放流技術の拡大	・低水温下での種苗生産コストの改善 ・有用水産資源の種苗生産技術の開発	・コスト削減 ・開発数	
		放流効果の向上	・水温・波浪・餌料条件などの海域の環境と調和した放流技術の開発	・-	
		資源管理手法の開発	・科学的な根拠に基づく効果的な資源管理	・-	
	養殖生産拠点の形成	養殖生産体制の構築	養殖生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・種苗生産・放流、餌料確保による計画的な生産 ・マーケットイン型養殖業 ・民間企業との連携 ・自然の地形を活用した沖合養殖展開 ・漁港内の静穏水域の創出による養殖・蓄養 ・漁港用地を有効活用した陸上養殖 ・GAP や AEL による付加価値向上策 ・ふるさと納税の返礼品による流通 ・SNS を活用した効果的な PR ・港内水質保全のための施設整備 ・漁港施設を活用した中間育成、養殖、蓄養を行うための施設整備 ・圏域の漁港をカバーする種苗生産、中間育成施設、餌料生産・供給施設の整備 ・養殖廃棄物の処理再生施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数量 ・品目数、金額 ・- ・品目数、金額 ・品目数、金額 ・品目数、金額 ・品目数、金額 ・品目数、金額 ・品目数、SNS 投稿数・登録数等 ・施設数 ・施設数 ・施設数 ・施設数
			漁業関係者自身の意識改革	・漁業関係者自身による自主的・持続的な取組による計画的な生産	・目標数量
			養殖技術の開発・改良	<ul style="list-style-type: none"> ・消費ニーズの高い育種技術の開発 ・リサイクル餌料の開発 ・大型浮沈式生け簀を用いた沖合養殖の発展 ・自動給餌システムの発展 ・アクアポニックスの展開 ・海洋深層水の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・品目数 ・- ・- ・- ・品目数、金額 ・品目数

■水産物安定供給基盤・体制の確保 作成リスト

水産業・漁村の将来像		北海道水産業の課題		推進方策	数値目標
水産物の安定供給基盤・体制の確保	水産流通の適正化	産地における生産・流通機能の強化、水産物の需要拡大	水産流通適正化法への対応	<ul style="list-style-type: none"> ICT技術を活用した監視機能の強化 産地表示の徹底 検査体制の充実 トレーサビリティシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> - - - 品目数
			消費者に対するトレーサビリティへの対応	<ul style="list-style-type: none"> トレーサビリティシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 品目数、目標年次
	スマート水産業の推進	水産業のデジタル化・スマート化	効率的な操業体制や安定的な養殖生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 蓄積・共有されたデータに基づく後継者指導・育成 ICT技術の活用による水温・水質データ、成長データ、給餌料のリアルタイム把握 データ統合・連携による効率化 	<ul style="list-style-type: none"> - 作業時間削減、人件費削減 作業時間削減、人件費削減
			赤潮監視体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 漁場環境データのリアルタイム把握 	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間削減、人件費削減
			漁労作業の自動化・省人化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ICT、AI、ロボットの導入 魚体判別技術の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間削減、人件費削減 作業時間削減、人件費削減
			市場業務のICT化による効率化	<ul style="list-style-type: none"> 荷受・荷渡・商取引システムのICT化 	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間削減、人件費削減
			水産物トレーサビリティの推進による高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> 水産物トレーサビリティシステムの構築による高付加価値化 	<ul style="list-style-type: none"> 収入増加

■水産物安定供給基盤・体制の確保 作成リスト

水産業・漁村の将来像	北海道水産業の課題	推進方策	数値目標	
水産物の安定供給基盤・体制の確保	産地における生産・流通機能の強化、水産物の需要拡大	食の外部化・簡便化	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店・外食産業との契約 ・消費者ニーズに合わせた冷凍食品、総菜、ファストフィッシュなどの加工品の商品開発・製造・販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約数 ・開発製品数、金額
		食の安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物トレーサビリティシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・品目数
		多様化する消費者ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた用途の最適化 ・商標登録やGI等によるブランド化 ・エシカル消費・エコスコアの活用 ・ICT技術を活用した消費地情報の収集・マーケティング ・マーケットイン型の販売拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・- ・ブランド化品目数 ・品目数 ・サンプル数 ・品目数
		多様な魚種への柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・漁獲物を迅速に取り扱うための機能強化 ・魚種変化に対応した処理施設の整備 ・きめ細やかな流通対応 ・多品種小ロットの漁獲物の適正価格での販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・- ・施設数 ・品目数 ・単価等の金額向上指数
		産地における価格形成機能の弱体化	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店・外食産業との契約 ・マーケットイン型の販売拡大 ・出荷調整システムの整備 ・活魚・活締め出荷 ・高度な冷凍技術を駆使した商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約数 ・品目数 ・単価等の金額向上指数 ・単価等の金額向上指数 ・開発製品数
		食品衛生法改正に伴うHACCP手法による水産物品質・衛生管理の義務化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根付き岸壁、清浄海水導入施設の整備 ・高度衛生管理型市場、製氷施設、冷凍・冷蔵・加工施設などの整備 ・陸揚げ～荷さばき～出荷～加工～流通プロセスにおける一貫した高度な品質・衛生管理体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設数 ・施設数 ・施設数
		サプライチェーン、デリバリーチェーンの多様化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな流通対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・-
		漁獲から陸揚げ、加工、出荷に至る衛生管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根付き岸壁、清浄海水導入施設の整備 ・高度衛生管理型市場、製氷施設、冷凍・冷蔵・加工施設などの整備 ・陸揚げ～荷さばき～出荷～加工～流通プロセスにおける一貫した高度な品質・衛生管理体制の確立 ・HACCP対応型の高度衛生管理型市場の整備 ・ICT技術を活用した荷受け～セリ・入札～荷渡し業務のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設数 ・施設数 ・施設数 ・- ・作業時間削減、人件費削減
		加工品の開発や魚食普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズに合わせた冷凍食品、総菜、ファストフィッシュなどの加工品の商品開発・製造・販売 ・活魚・活締め出荷 ・高度な冷凍技術を駆使した商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発製品数、金額 ・品目数、単価等の金額向上指数 ・開発製品数、金額

■水産物安定供給基盤・体制の確保 作成リスト

水産業・漁村の将来像		北海道水産業の課題		推進方策	数値目標
水産物の安定供給基盤・体制の確保	水産物輸出の更なる推進	水産物輸出の拡大	輸出対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> 輸出品目の拡大 高次加工製品の開発 港湾や空港と連携した水産物輸出体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 品目数、輸出金額 開発製品数、輸出金額 -
			海外市場に向けた付加価値向上	<ul style="list-style-type: none"> MSC 認証、MEL ジャパン認証の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 認証数
			輸出相手国の基準に対応した生産流通体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 漁獲から陸揚げ、市場での取引、流通加工に至るまでの一貫した高度な品質・衛生管理体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 施設数
			輸出拡大に向けた戦略的な環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 食文化やニーズに応じたきめ細やかなマーケティング活動 水産物の輸出に関する手続きの簡素化 地域間連携や広域連携による輸出促進 	<ul style="list-style-type: none"> サンプル数 - 連携数

■環境・生態系保全とグリーン社会の構築 作成リスト

水産業・漁村の将来像		北海道水産業の課題		推進方策	数値目標
環境・生態系保全とグリーン社会の構築	沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり	豊かな生態系を指した水産環境の保全・創出	マイクロプラスチック問題への対応	・マイクロプラスチック削減	・削減数量
			漁場環境の悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・生態系保全活動の組織化 ・植樹・育樹活動 ・海岸清掃 ・遡河性魚種に配慮した河川環境の保全・創出 ・水産系廃棄物による海域環境汚染の防止 ・藻場・干潟造成、モニタリング ・漁業・海洋に関する体験学習活動 ・漁業者と協働した環境・生態系保全活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・- ・植樹数量 ・実施回数 ・- ・藻場面積 ・実施回数 ・-
			磯焼けへの対応	・食害生物の駆除	・数量
	漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進	循環型社会への対応とグリーン化の推進	カーボンニュートラルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入 ・漁港周辺関連施設における再生可能エネルギーの利用 ・エネルギーコスト削減技術の普及 ・生産・流通・加工過程における省エネ化 ・電動漁船の普及 ・給電施設の整備 ・藻場・干潟造成によるブルーカーボン 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電量、施設数 ・利用施設数 ・コスト削減額 ・電力削減量 ・漁船数 ・施設数 ・藻場面積
	水産系廃棄物等のリサイクルの推進		処理技術の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・水産加工残滓・未利用資源・駆除生物等を活用した肥飼料化・加工商品化 ・廃船、廃棄漁具・廃棄漁網などのリサイクル技術の研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品数、リサイクル量 ・-
			処理コストの低減	<ul style="list-style-type: none"> ・生物由来の廃棄物による農業用土壌改良剤・肥飼料の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品数、リサイクル量、コスト削減額

■安全・安心な漁業地域づくり 作成リスト

水産業・漁村の将来像		北海道水産業の課題		推進方策	数値目標
安全・安心な漁業地域づくり	増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化	増大する災害リスクへの対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・災害リスクの増大への対応力強化 ・逃げ遅れ・物理的な孤立・情報の孤立 ・災害発生時における電源確保 ・ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策の推進 ・BCPの実効性確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画と一体となった防災・減災対策 ・防波堤の機能強化 ・係留施設の耐震性強化 ・道路・用地の液状化対策 ・漂流物対策施設の整備 ・緊急物資保管場所の整備 ・人工地盤、津波避難デッキ、津波避難タワーなどを活用した避難経路・避難場所の確保 ・防災対策協議会の設置 ・陸域の避難、海域の漁船避難ルールの策定 ・防災情報伝達システムの構築 ・避難訓練の実施 ・漁港 BCP の PDCA サイクルによる運用・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・- ・- ・- ・- ・- ・- ・短縮避難時間、避難者数 ・- ・- ・- ・-
	ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築				
	災害時における水産物流通機能の確保				

■漁村地域の総合的な振興 作成リスト

水産業・漁村の将来像	北海道水産業の課題		推進方策	数値目標
漁村地域の総合的な振興	海業振興による地域資源を活かした新産業の創出	海業振興による漁村地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様なマリンレジャー ・長期滞在型のブルーツーリズム ・渚泊 ・遊漁 ・体験漁業 ・漁港食堂 ・水産物直売所 ・漁業・養殖業と水産加工・流通業が連携した6次産業化 ・環境教育 ・様々な産業との連携による地場産品を使った料理の提供・イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目数、利用者数、所得増加 ・利用者数、所得増加 ・利用者数、所得増加 ・利用者数、所得増加 ・項目数数、利用者数、所得増加 ・利用者数、所得増加 ・利用者数、所得増加 ・品目数、所得増加 ・体験者数
	多面的機能の発揮	海業振興による漁村地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な販売経路による魚食普及の拡大 ・新たな地域産業形成による雇用の場の創出 ・交流拠点の形成 ・漁場管理制度の活用による海域環境の適切な管理 ・漁業協同組合・漁業者・民間企業との連携による海業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・品目数、参加者数 ・販売経路数、所得増加 ・新規雇用者数 ・- ・- ・-
		漁港機能の集約化・再編整備	<ul style="list-style-type: none"> ・漁場内水域を活用した増養殖 ・プレジャーボート、遊漁船の係留場 ・防波堤を利用した海釣り場 ・料理実習など体験学習 ・ネイチャークルーズ・流水観光などの船舶やクルーズ船の発着場 	<ul style="list-style-type: none"> ・品目数、漁獲量・金額増加 ・- ・- ・実施回数、利用者数 ・発着数、利用者数
		多様な連携による地域振興	多様な連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水産関係者、農業・酪農・商工・観光等の関係者、住民、行政、研究機関の連携 ・漁村同士、農山村地域の連携による相互の特産物を活用した物産イベントの開催 ・都市部の消費団体との連携による地域の食文化や魚食普及活動 ・地域資源を活用した水産物と農産品の一体となった販売による付加価値の向上 ・水福連携
地域振興を担う人づくり	漁村地域を支える人材の育成	取組を担う人材の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な漁業への転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・-
		地域活性化の推進母体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術を活用した就労環境の改善 ・地域の担い手確保に向けた規制緩和や制度の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員削減、作業時間の削減等 ・-
		女性が活躍しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う小中高生を対象とした漁業・水産業・マーケティングの教育や魅力の発信 ・SNSや動画配信サービスを活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数
		働き方改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・漁村と都市部による交流イベントの共催 ・漁村と大学などとの連携による学生の漁業や地域行事・イベントへの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS投稿数・登録数等 ・イベント数、参加者数 ・イベント数、参加者数

X地域マリンビジョン

～サブテーマ～

水産物の安定供給
基盤・体制の確保

環境・生態系保全と
グリーン社会の構築

安全安心な
漁業地域づくり

漁村地域の
総合的な振興

■地域マリンビジョン協議会

【メンバー構成】

- ・ 漁業関係者
- ・ 農業関係者
- ・ 商工関係者、金融関係者
- ・ 小学校、郵便局、信用金庫、町内会等
- ・ 行政関係者

●基礎データ

地域人口：●人（●町、●値）
漁業生産量：●t（●値）
漁業生産額：●百万円（●値）
漁港：△漁港（第3・4種）、
□漁港（第1・2種）

参考資料2

《令和〇年〇月改訂》

地域の将来像

テーマ：○○○

水産物の安定供給基盤・体制の確保

- ・ 高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築
- ・ 養殖生産拠点の形成

- ・ 衛生管理型荷さばき施設の建設
- ・ 衛生管理ソフト対策の充実
- ・ 漁獲物のブランド化
- ・ 海面養殖事業の展開、陸上養殖事業の展開

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

- ・ 沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり
- ・ 漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進
- ・ 水産系廃棄物等のリサイクルの推進

- ・ 藻場造成の推進
- ・ 豊かな河川環境の保全・創出
- ・ エネルギーの地産地消
- ・ リサイクルの推進による循環型社会の構築

安全安心な漁業地域づくり

- ・ 増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化
- ・ ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築
- ・ 災害時における水産物流通機能の確保

- ・ 災害リスクの増大への対応力強化
- ・ 災害時における水産物流通機能の確保

漁村地域の総合的な振興

- ・ 海業振興による地域資源を活かした新産業の創出

- ・ 地域水産物を活用した都市との交流
- ・ 渚泊の推進による滞在型観光の実現

地域全体

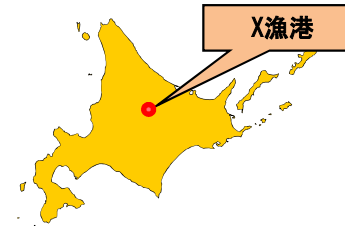
現状

課題

- ・ 人口が減少
- ・ 少子高齢化が進行
- ・ 漁業者が減少傾向
- ・ 主要魚種が不漁、魚価単価が下落
- ・ 災害が頻発化・激甚化

- ・ 漁船漁業の生産量・額が減少
- ・ 漁業者所得が減少
- ・ 最新の動向に合わせた災害対応
- ・ 労働力不足への対応
- ・ 交流人口の増加

【位置図】



航空写真

【X漁港】

地域資源（特徴）

写真

写真

写真

〈陸揚げ状況〉

〈地域特産〉

〈イベント〉

【その他】

- ・
- ・
- ・

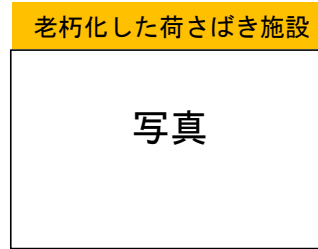
- ・ 地域全体の現況・課題が分かる写真・図・グラフ 等

水産物の安定供給基盤・体制の確保

【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】
【養殖生産拠点の形成】

A地域マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理施設（屋根付き岸壁、清浄海水導入施設）が整備済 衛生管理マニュアルは作成済であるが、10年以上未更新 衛生管理講習会等を開催していない 荷さばき施設が築40年以上経過しており、老朽化が激しい ブランド水産物がない 水産物輸出の実績がない 近年漁獲量が大幅に減少、・主要魚種の年変動が大きく、収入が安定しない 漁業者の減少・高齢化が進行 漁港水域内で〇〇養殖を試験的に実施→斃死率が高い 漁港内に遊休化した用地、水域有
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理体制の構築 水産物の付加価値向上 漁家収入の安定化 養殖生産体制の構築 遊休化した用地、水域の有効活用



【概要】
・昭和〇年に供用開始
・〇△□



【概要】
・令和〇年より試験開始
・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
高度衛生管理型市場の整備	主体：漁協、役場 (A地域衛生管理協議会)	短期：衛生管理型荷さばき施設の建設に向けた協議会の設立、衛生管理型荷さばき施設の視察	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理型荷さばき施設で取り扱われる水産物の割合（〇割） 優良品質衛生管理市場・漁港認定取得
		中期：衛生管理型荷さばき施設の建設に向けた協議会の開催、衛生管理型荷さばき施設の計画立案・施設設計	
		長期：衛生管理型荷さばき施設の施工	
衛生管理マニュアルの更新・運用	主体：漁協、役場 (A地域衛生管理協議会)	短期：衛生管理講習会の開催、一般衛生管理の実施	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理講習会の開催（年〇回） 現地指導の実施（年〇回） 優良品質衛生管理市場・漁港認定取得
		中期：新たな衛生管理型荷さばき施設に対応した衛生管理マニュアルの更新、衛生管理講習会の開催	
		長期：新たな衛生管理型荷さばき施設での衛生管理マニュアルの運用、衛生管理講習会の開催、現地指導の実施	
水産物の付加価値向上に向けた認証等の取得	主体：漁協、役場 (A地域水産物ブランド化協議会)	短期：水産物ブランド化協議会の設立、ブランド化対象魚種の選定	水産物のブランド化による単価向上（〇%）
		中期：水産物の付加価値化に向けた方法の検討（エコラベル、商標登録、GI等）	
		長期：認証取得、ブランド水産物のPR	
〇〇水産物の海面養殖事業の実施	主体：漁協、役場 (A地域海面養殖協議会)	短期：海面養殖協議会の設立、対象魚種・施設規模の設定	<ul style="list-style-type: none"> 生産量〇t/年 生産額〇百万円/年
		中期：養殖設備・機材と種苗・餌料の調達、小規模試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上に向けた餌料等の検討	
		長期：海面養殖の事業化	
〇〇水産物の陸上養殖事業の実施	主体：漁協、役場 (A地域陸上養殖協議会)	短期：陸上養殖協議会の設立、対象魚種、施設規模の設定	<ul style="list-style-type: none"> 生産量〇t/年 生産額〇百万円/年
		中期：陸上養殖施設の計画立案・施設設計、種苗・餌料の調達、小規模試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上に向けた餌料等の検討	
		長期：陸上養殖施設の建設	

写真・データ等

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】
 【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】
 【水産系廃棄物等のリサイクルの推進】

B地域マリンビジョン

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼けが進行 ・ウニの身入りが悪い ・サケマスの資源量が減少 ・電気料金の高騰 ・B町ゼロカーボン宣言が策定済 ・刺網漁業がさかん⇒2、3年で漁網が廃棄され、処理費がかかる ・海岸清掃を実施
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼けへの対応、ウニの身入り向上 ・サケマスの資源量回復 ・カーボンニュートラルへの対応 ・廃棄漁網のリサイクルの推進

磯焼け状況

写真

【概要】
 ・平成〇年頃より発生
 ・〇△□

サケマス資源量の減少

グラフ

【概要】
 ・令和〇年より減少傾向
 ・〇△□

ゼロカーボン宣言の概要

【概要】
 ・令和〇年を目標にゼロカーボン実施
 ・〇△□

海岸清掃状況

写真

廃棄漁網の現状

【概要】
 ・年間〇tの刺網が廃棄
 ・処理費用〇円/tがかかる
 ・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
コンブ漁場造成によるウニの身入り向上、ブルーカーボンの推進	主体：漁協、役場、協力企業	短期：藻場造成事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ウニの生産量〇kg/年増加 ・CO2吸収量〇t
		中期：ウニの移殖、身入り向上試験実施	
		長期：藻場造成にCO ₂ 吸収効果の算出、クレジット化の検討	
魚道整備	主体：漁協、役場	短期：サケマス遡上河川の実態調査	<ul style="list-style-type: none"> ・資源量〇t増加
		中期：河川環境の改善計画の検討	
		長期：魚道整備・障害物撤去・施設改良等	
再生可能エネルギーの導入	主体：漁協、役場、協力企業	短期：再生可能エネルギー（風力、太陽光、雪冷熱等）の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・発電量〇W ・電力コスト削減（〇%）
		中期：施設整備計画の立案・施工	
		長期：漁港施設における発電電力の利用	
廃棄漁網のリサイクル	主体：漁協、役場	短期：リサイクル方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル漁網数量〇t/年
		中・長期：リサイクルの実行	

写真・データ等

安全・安心な漁業地域づくり

現状

- ・耐震強化岸壁が整備済
- ・漁港周辺の地形が平地
- ・気候変動に伴い潮位が上昇
- ・BCPが策定済
- ・電源喪失に伴う漁獲物被害有

課題

- ・津波に対する防災・減災
- ・高潮被害の防止
- ・BCPの実効性確保

災害時の状況

地震・津波による被害写真

地震・津波による被害写真

被害想定データ

- 《〇〇地震による被害想定》
- ・死傷者数〇人
 - ・被害額〇円
 - ・被害施設数〇
 - ・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
津波避難タワーの整備	主体：漁協、役場	短期：施設整備計画（立地・規模・必要高等）の立案	・避難時間〇分削減 ・収容人数〇人
		中・長期：資金調達（補助金制度の活用等）、施設の建設・運用	
津波漂流物対策施設の整備	主体：漁協、役場	短期：施設整備計画（配置・規模等）の立案	※漁業活動の早期再開を目指す
		中・長期：資金調達（補助金制度の活用等）、施設の建設・運用	
避難ルールの策定・運用	主体：漁協、役場 （C地域防災対策協議会）	短期：防災対策協議会の設立	※死者ゼロを目指す
		中期：陸域・海域避難ルールの策定	
		長期：避難ルールに基づく訓練の実施	
高潮対策の推進	主体：漁協、役場	短期：高潮リスクの特定・分析・評価	※死者ゼロを目指す
		中期：施設整備計画の立案	
		長期：嵩上げ等施設整備の実施	
非常用電源施設の確保	主体：漁協、役場	短期：施設整備計画（設置箇所、必要規模等）の立案	※漁業活動の早期再開を目指す
		中・長期：資金調達（補助金制度の活用等）、施設整備・運用	
BCP計画に基づく訓練の実施	主体：漁協、役場 （C地域防災対策協議会）	短期：防災対策協議会の設立	※漁業活動の早期再開を目指す
		中期：机上訓練の実施	
		長期：BCP計画の見直し	

写真・データ等

漁村地域の総合的な振興 現状 課題	<ul style="list-style-type: none"> 観光地に隣接 不定期イベントで魚介類の販売を実施し、売り上げが好調 町内に地域の漁獲物を販売、飲食できるところがない 町内の宿泊施設が少ない 通過型観光地 修学旅行生の受入れ、漁業体験を実施した実績有 漁協施設の新設予定あり
	<ul style="list-style-type: none"> 地域水産物の地域での消費 資源量減少による漁業者所得の減少 宿泊施設の確保 通過型観光から滞在型観光への改善

直販イベント
写真

- 【概要】
- ・毎年〇月に開催
 - ・〇△□

漁協施設（案）
イメージ図

- 【概要】
- ・直販所併設の荷さばき所建設予定
 - ・〇△□

周辺観光資源
写真

- 【概要】
- ・〇△□

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
漁協施設による地域水産物の販売	主体：漁協、役場	短期：直販所建設計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・直販所の売上高〇億円 ・所得〇円増加
		中期：施設の建設、直販店舗による地域水産物の販売	
		長期：新たな商品、ブランド品等の販売	
漁港食堂の運営	主体：漁協、役場	短期：漁港機能の集約化・再編計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・来客数〇人/年 ・所得〇円増加
		中期：遊休化した用地を活用した漁港食堂の建設計画立案	
		長期：施設の建設・運営	
クルーズ船の受入	主体：漁協、役場	短期：漁港機能の集約化・再編計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・帰港数〇回 ・来場者数〇人/年 ・所得〇円増加
		中期：クルーズ船発着場等の受入施設の整備、クルーズ船の誘致	
		長期：クルーズ船の受入	
漁家民泊の推進	主体：漁協、役場	短期：漁家民泊実施者の募集	<ul style="list-style-type: none"> ・渚泊利用者数〇人/年 ・修学旅行〇校/年受入
		中期：漁家民泊開始、漁協整備による宿泊施設の運営	
		長期：就学旅行・研修旅行等の受入、外国人観光客の受け入れ	
漁船クルーズの実施	主体：漁協、役場	短期：漁船クルーズコースの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数〇人/年
		中期：漁船クルーズ実施者の募集、試験運用	
		長期：事業化、他事業との連携	

写真・データ等

《参考資料 3》

地域マリンビジョン策定に向けた 議論のツール

①ブレインストーミング

ブレインストーミングとは、複数のメンバーが自由に意見を出し合うことで、新たな発想を生み出したり、アイデアを昇華させたりすることを目的として行うものです。参加者が次々に意見を出していくことで発想が刺激され、一人では思いつかないようなアイデアを思い浮かぶケースもありますし、アイデア同士を結合させることで、斬新なアイデアが生まれることもあります。参加人数や時間に関する制限はなく、通常は複数名でおこないますが、一人でアイデアを出す行為もブレインストーミングに該当します。原則として、以下の4つを守って行う必要があります。

- アイデアを批判・評価しない**：多種多様なアイデアを可能な限り多く出すことが必要です。そのためには他のメンバーのアイデアを批判・評価するのは禁物です。
- 自由にアイデアを出す**：誰もが思ったことを自由に発言できる雰囲気が重要です。緊張感のある雰囲気では、堅苦しいアイデアしか出てきませんので、可能な限り自由な雰囲気づくりを意識して多様なアイデアを引き出せるように努めましょう。
- 質よりも量を重視する**：アイデアの「質」ではなく「量」を重視します。質にこだわると、発言内容を考えすぎてしまい、スピードが遅くなってしまいます。量をたくさん出すことで、それが質の向上につながっていきます。
- アイデアを結合・発展させる**：チーム全員でアイデアを生み出していく姿勢です。一人ひとりが自分のアイデアに固執していると、発展性がなくなってしまいます。複数のアイデアを結合して新しいアイデアを生み出したり、アイデアを組み合わせて発展させたりする意識で進めましょう。

【流れ】

1. 「なぜ、ブレインストーミングを行うのか？」という目的を設定します。自由にアイデアを出し合うのが特徴ですが、参加者が目的を意識していないと、好き勝手に話すだけのミーティングとなります。
2. 進行役：ファシリテーターを決定します。ファシリテーターの進行の仕方や雰囲気づくりによって、ブレインストーミングの結果も左右されます。
3. 参加人数に決まりはありませんが、少人数（5～8人程度）がおすすめです。メンバーが少ないと出てくるアイデアのバリエーションが少なくなってしまうますが、逆にメンバーが多いと発言できない人も出てきます。
4. ここまで来たら、実際にブレインストーミングを行います。まずは、できるだけ多くのアイデアを出し、付箋に書き出していきます。アイデアが出揃ったらそれらを分類し、ホワイトボードなどを区分けして付箋を貼っていきます。分類・整理したアイデアを俯瞰することで、さらに発展したアイデアを出しやすくなります。

②KJ 法

KJ 法とは思いついたキーワードや情報をカードなどに挙げていき、関連性のあるものをグルーピングすることで、解決方法やアイデアを発想する手法です。

【流れ】

1. 前述のブレインストーミングで出たすべてのアイデアを見渡せるようホワイトボードや模造紙等に貼り、その中から、関連した内容のものを小さくグルーピングします。なお、グルーピングできないものが残った場合、あえてグループ化する必要はありません。グルーピングが完了したら、小グループごとにタイトルをつけましょう。
2. 小さなグループを、さらに大きなくくりへとグルーピングしていきます。
3. 各グループの関連性がわかるように、関連あるものを近づけて配置します。配置が完了したら、各大・小グループ同士の因果関係を明確にします。
4. 以上により体形化された情報を評価し、活用してみてください。

③SWOT 分析

SWOT 分析とは、目標を達成するために意思決定を必要としている組織等が、プロジェクトを対象として、強み、弱み、機会、脅威を抽出した上で、客観的に課題や問題点を整理し、将来ビジョンや行動戦略を立案するために有効な計画ツールです。強みを最大限に活用し、弱みを克服する方法を見つけ、機会を最大限に活かし、脅威に備えることが目的です。また、分析結果から、SO 戦略(強み×機会)、WO(弱み×機会)、ST 戦略(強み×脅威)、WT 戦略(弱み×脅威)等のフレームワークを用いて、行動戦略を立案することが出来ます。

SWOT 分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境 ～自社が原因・所有しているもの	強み (Strength) ～自社の持つ強みや長所、得意なことなど	弱み (Weakness) ～自社の持つ弱みや短所、苦手なことなど
外部環境 ～自社に影響を与えるまわりの環境	機会 (Opportunity) ～社会や市場の変化などでプラスに働くこと	脅威 (Threat) ～社会や市場の変化などでマイナスに働くこと

【流れ】

1. 前述のブレインストーミングで出たアイデアを「強み、弱み、機会、脅威」にグルーピングします。
2. グルーピング結果から、強みを最大限活かし、弱みを克服する等の行動戦略を検討します。
3. 分析結果から、SO 戦略(強み×機会)、WO(弱み×機会)、ST 戦略(強み×脅威)、WT 戦略(弱み×脅威)等のフレームワークを用いて、行動戦略を立案することも可能です。

[参考] 飲食店の場合の SWOT 分析例 (※経済産業省 HP より抜粋)

SWOT 分析

<p>《強み (S)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭料理が人気 ・ 地元食材を利用 ・ リピーターが多い 	<p>《弱み (W)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 店が狭い ・ 価格が高め ・ 知名度が低い
<p>《機会 (O)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会の進展 ・ 独身者の増加 ・ 巣ごもり需要 ・ ネットの普及 	<p>《脅威 (T)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低価格ライバル店や新型コロナによる集客減

↓クロス SWOT 分析

<p>《強み×機会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニア向け新メニュー ・ 朝食ランチ ・ テイクアウト 	<p>《弱み×機会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減 ・ 低価格メニュー ・ SNS で PR
<p>《強み×脅威》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポイントカード ・ クーポン配布 	<p>《弱み×脅威》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットの見直し

《クロス SWOT 分析 (例)》

- ・ 強み×機会 = 「高齢社会の進展」という“機会”に対して、「家庭料理が人気」という“強み”を活かし、「シニア向け新メニュー」を開発するという行動戦略を立案
- ・ 弱み×機会 = 「知名度が低い」という“弱み”に対して、「ネットの普及」という“機会”を活かし、「SNS で PR」するという行動戦略を立案
- ・ 強み×脅威 = 「低価格ライバル店による集客減」という“脅威”に対して、「リピーターが多い」という強みを活かし、「ポイントカード」の発行、「クーポン配布」という行動戦略を立案
- ・ 弱み×脅威 = 「低価格ライバル店や新型コロナによる集客減」という脅威に対して、「価格が高め」、「知名度が低い」という“弱み”を踏まえ、「ターゲットの見直し」を図るという行動戦略を立案。なお、取組によっては「撤退・事業廃止」といった方針も考えられる。